

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 全 恵子

本論文は、現代韓国語のいわゆる先語末語尾 -ㄹ(-keyss-) について、その機能と多義構造を明らかにしようとするものである。この語尾は、現代韓国語において頻繁に使われる重要なものであるにもかかわらず、一般的な文法書や先行研究において、意志、推量、未来、その他さまざまな機能を持つとされ、研究者によって意見が異なるのみならず、そうしたさまざまな機能の間の相互関係も明らかにされていなかった。本論文はこの語尾について、韓国の国立国語院でまとめられた話し言葉のコーパスに基づき、そこから大量の用例を抽出して、その1つ1つの例文においてこの語尾がいかなる意味を表わしているかを確定した上で、それを総合的に検討しこの語尾の機能を明らかにしている。

第1章から第3章までは、研究目的、研究方法、先行研究の検討を行い、その上でこの語尾がどのような文法範疇で扱われるべきものかを検討している。続く第4章では、この語尾と他の語尾との結合および共起関係を計量的に明らかにしている。

第5章からが本論にあたるが、まず例文を叙述形の文と疑問形の文に分けた上で、第5章で前者を、第6章で後者を扱っている。これは、両者において必ずしも並行しない部分があること、および従来は疑問形の文に使われる例文自体あまり研究対象とされてこなかったことによるもので、これによってこの語尾の全体像がより客観的に捉えられるようになった。そしてそれぞれにおいてこの語尾が使われた例文の意味を検討し、それぞれ4つのグループに大別した上で、これらに共通して現れうる機能として未来性、確実性、婉曲性の3つを示し、さらにこの語尾が使われる文には、その場で判断して述べるという「現場性」、主体が明示されていなくてもこの語尾の存在によってそれが特定されるという「主体の固定性」、また疑問形で使われる文では話者があらかじめ持っている判断を示す「前提性」の特徴が見られることも明らかにしている。次に第7章で、叙述形と疑問形の用法における対称性を検討し、第8章では、それまでに抽出した諸特徴の相互関係を考察し、この語尾のもつ多義構造を明らかにしている。

本論文の特徴の1つとして、この語尾固有の機能の抽出を厳密に行なっている点が見られる。従来、例えばこの語尾が使われたある種の文が意志を表わすとされることがあったが、本論文ではそのような場合に、この語尾を取り去った文を同時に考察して、それでも意志を表わす文として成立するか否かというチェックを、母語話者による検証も伴いつつ、厳密に行っている点にある。これによって各例文におけるこの語尾固有の機能の抽出が従来の研究よりも精密になっている。

本論文については、一部の用語が分かりにくいこと、また、書き言葉における用法にふれられていない点など、いくつか改善すべき点も見られるが、大量のコーパスに基づいてこの語尾がもつ複雑な機能を整理し、従来明らかにされなかった多くの問題点を解明したことは大きな功績と考えられる。よって、本審査委員会は、本論文が博士(文学)の学位を授与するに相応しいものと判断する。